

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-195	高等学校	国語科	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	論国 183-901	高等学校 改訂版 論理国語		

1. 編修の基本方針

1. 近現代のすぐれた論理的な文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 現代社会における問題を具体的に扱った教材を意識的に採録して、人間・環境・社会などさまざまな課題に向き合う態度を養うことができるように配慮した。
5. 我が国の言語文化の伝統を深く理解したうえで、言葉によつて的確に理解し、適切に交流する能力をはぐくみ、真に国際的な人間形成を促すことを期した。

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 I 部	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のはたらきに理解を深め、語彙や表現を豊かにして、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した (第 1 号)。 	p. 39～45 p. 116～123
	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによつて、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した (第 1 号)。 	p. 32～37
	<ul style="list-style-type: none"> ・「コラム」を置き、情報の収集や、情報の妥当性や信頼性の吟味といった、現代の情報化社会において重要とされる能力を高めることを目指した (第 1 号)。 	p. 68～69 p. 90～93 p. 177～179
	<ul style="list-style-type: none"> ・「読みを広げる」を設定して、読書の幅を広げることができるようにした (第 1 号)。 	p. 22 p. 30 p. 38 p. 46 p. 67 p. 78 p. 89 p. 104 p. 124 p. 134 p. 143 p. 152 p. 163 p. 172
第 I 部	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を肯定するとともに、多様な価値観について述べた題材を採録し、異なる立場からの意見を尊重する態度を身に付けられるように配慮した (第 2 号)。 	p. 16～21 p. 116～123
	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会の持つ仕組み・制度について考察を促す題材を採録し、生徒が自身の社会生活について考えを深めることができるようにした (第 2 号)。 	p. 70～77 p. 144～151 p. 164～171
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の会話を含む教材を用意し、生徒自らが主体性を発揮して学習に取り組むことを期した (第 2 号)。 	p. 180～184
第 I 部	<ul style="list-style-type: none"> ・近代社会の秩序や理念について述べた題材に加えて、情報化の進展、科学技術の発展など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した (第 3 号)。 	p. 125～133 p. 154～162 p. 164～171 p. 174～176
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活など、生徒にとっての実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした (第 3 号)。 	p. 180～184

	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、自然、環境といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。 	<p>p. 23～29 p. 52～55 p. 136～142</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・言語論・比較文化論・芸術論を積極的に採録するなどして、我が国の言語文化に対する関心を喚起するとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。 ・「読みを広げる」を設定して、言語文化に対する興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。 	<p>p. 48～51 p. 56～66 p. 80～88 p. 94～103 p. 106～109 p. 110～114</p> <p>p. 22 p. 30 p. 38 p. 46 p. 67 p. 78 p. 89 p. 104 p. 124 p. 134 p. 143 p. 152 p. 163 p. 172</p>
第Ⅱ部	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のはたらきに理解を深め、語彙や表現を豊かにして、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した（第1号）。 ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。 ・「読みを広げる」を設定して、読書の幅を広げることができるようにした（第1号）。 	<p>p. 197～207 p. 234～239 p. 240～246</p> <p>p. 186～195</p> <p>p. 196 p. 208 p. 218 p. 232 p. 256 p. 270 p. 281 p. 292 p. 307 p. 320 p. 335 p. 352 p. 360 p. 380</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を肯定するとともに、多様な価値観について述べた題材を採録し、異なる立場からの意見を尊重する態度を身に付けられるように配慮した（第2号）。 ・生徒同士の会話を含む教材を用意し、生徒自らが主体性を発揮して学習に取り組むことを期した（第2号）。 	<p>p. 219～231 p. 282～291</p> <p>p. 386～390</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・近代社会の秩序や理念について述べた題材に加えて、情報化の進展、科学技術の発展、消費行動のあり方など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 ・学校生活など、生徒にとっての実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした（第3号）。 	<p>p. 248～255 p. 257～269 p. 294～306 p. 308～319 p. 322～334 p. 336～351 p. 354～359 p. 361～379 p. 382～385 p. 386～390</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、自然、環境といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。 	<p>p. 210～217 p. 219～231 p. 272～280</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・言語論を積極的に採録して、我が国の言語文化に対する関心を喚起するとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。 ・「読みを広げる」を設定して、言語文化に対する興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。 	<p>p. 197～207</p> <p>p. 196 p. 208 p. 218 p. 232 p. 256 p. 270 p. 281 p. 292 p. 307 p. 320 p. 335 p. 352 p. 360 p. 380</p>

表現編	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活や学術的な学習の基礎となる知識や教養を身に付け、自分の考えや事柄を国語で適切に伝える能力を伸ばせるようにした（第1号）。 ・情報を整理したり、整理した情報を適切に活用したりといった、現代の情報化社会において重要とされる能力を高めることを目指した（第1号）。 	p. 392～400 p. 402～416 p. 404～411
	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。 	p. 392～400 p. 402～416
	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係とペルソナという、生徒自身の社会生活に深く関わる題材を扱った文章を課題文とすることで、他者と協働的な関係性を築く態度について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 	p. 402～416
	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化問題という、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした。（第4号）。 	p. 392～400
	資料編・口絵	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に関する実用的な資料を採録し、実生活や学術的な学習の基礎となる知識や教養を身に付けることができるようにした（第1号）。 ・「評論主要テーマ一覧」「評論キーワード一覧」「評論キーパーソン一覧」を用意し、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、我が国や他国の言語文化に対する興味・関心を喚起できるよう配慮した（第1号・第5号）。

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、第I部、第II部の各教材の最後に「学習の手引き」「言語活動の手引き」「言葉の手引き」として課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- ・書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-195	高等学校	国語科	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	論国 183-901	高等学校 改訂版 論理国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・「現代の国語」および「言語文化」で育成された資質・能力をさらに推し進め、実社会や学術的な学習に必要な国語の知識や技能を効果的に身につけるため、全体を「第Ⅰ部」「第Ⅱ部」と「表現編」で構成し、論理的・批判的な思考力・判断力を育成するための学びと、表現力を育成するための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・「第Ⅰ部」「第Ⅱ部」は、教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるよう考慮して、評論、および、実用的な文章を取り上げた。評論はテーマを基本とした単元構成にして、教材どうしが有機的な繋がりをもって学習できることを意図した。
- ・「表現編」は、「A 書くこと」に関わる教材を取り上げ、「論理国語」の目標に掲げられている、「他者との関わりの中で伝え合う力を高め」るための学びを実現することを意図した。
- ・「B 読むこと」の教材選定にあたっては、生徒の発達段階や「現代の国語」「言語文化」との接続にも配慮しつつ、高校生が身につけておくべき幅広い知識を提供し得る作品をさまざまな分野から厳選し、人間や社会に対する視野や考えがさらに広がり深まるように教材を配列した。
- ・評論単元の扉および「表現編」の教材の冒頭に、それぞれの教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・作品の中で押さえておくべき熟語、慣用句、四字熟語等を「注意すべき語句」として脚注の左に示し、必要な語句を効果的に学習できるよう配慮した。
- ・「言葉の手引き」を設定して、「B 読むこと」の内容と関連づけながら漢字・語句・表現・修辞等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・情報と情報との関係については、「B 読むこと」の内容と関連づけながら「学習の手引き」で理解を深めるとともに、「読解のレッスン(一)・(三)」において、主張と根拠、具体と抽象といった情報と情報との関係や、論理展開の基本となる推論について基礎的な知識を得られるようにした。
- ・巻末に「資料編」、巻頭と巻末に「口絵」を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。
- ・作品ごとに作者解説を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図るとともに、評論に関しては「読みを広げる」を設けて、読書の幅を広げることができるように意図した。

③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 書くこと」に関しては、「言語活動」を主体として教材を設定し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、自分の考えを広げて伝え合う能力を育成することを旨とした。教材として取り上げる項目は、「言語活動例」に示された内容に即して選定した。
- ・「B 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
 - ＊「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所を、内容理解を確認する目的で示した。
 - ＊「学習の手引き」は、文章全体の構成の把握、構成を支えている論理(各段落のはたらき、段落相互の関係、論展開など)の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈および評価という、基本的に三つの事柄を行うことを主旨として設定した。
 - ＊「言語活動の手引き」は、本文を学習して得た知識や、本文に関連する事柄などをもとにして、文章を書いて発表したり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる「言語活動」を行うことを主旨として設定した。
- ・「言語活動の手引き」とは別に、「B 読むこと」の「言語活動」として、関連あるいは共通するテーマについて書かれた二つの文章教材を用意し、それぞれの書き手の意図を捉えながら必要な情報を関係づけ、多面的・多角的な視点から自分の考えを深めることができるようにした。
 - p. 80「手の変幻」、p. 87「ミロのビーナスにみる侘び寂び」
 - p. 106「科学者と芸術家」、p. 110「自然と科学と、芸術のお話」
- ・実用的な文章は、実用と活用に重点を置いて、「言語活動」を主体とした課題設定を行った。

2. 対照表

章	単元	図書の構成・内容 教材	学習指導要領の内容							該当箇所	配当時数		
			知識及び技能			思考力・表現力・判断力等					書くこと	読むこと	計
			(1)	(2)	(3)	(1)書くこと	(2)書くこと	(1)読むこと	(2)読むこと				
第Ⅰ部	評論(一) 豊かさを捉え直す	「利他」とは何か	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・カ	ア	p.16-p.21	1	2	3
		[読みを広げる]			ア					p.22			
		エディブル・プラネット	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.23-p.29	1	2	3
		[読みを広げる]※以下12箇所			ア					p.30			
	評論(二) 他者と向き合う	自他の「間あい」	イ・エ	ア・イ		ア・ウ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.32-p.37	1	2	3
		対話の意味	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・オ・カ・キ	ア・ウ・エ	p.39-p.45	1	2	3
	読解のレッスン(一) 論理を見いだす	制作の自由と制約	エ	ア・イ				ア・カ		p.48-p.51		1	1
		共感と道徳的行為	エ	ア・イ				ア・カ		p.52-p.54		1	1
	評論(三) 言語文化を解きほぐす	オノマトペとは何か	ア・イ・エ	ア・イ		ウ・オ・カ	ア・ウ	ア・カ	ア・ウ	p.56-p.66	1	3	4
		[コラム]文章を要約するには	エ	ア・イ						p.68-p.69			
		越境する動物がもたらす贈り物	イ・エ	ア・イ		ア・イ	ア・ウ・エ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ・オ	p.70-p.77	1	2	3
	評論(四) 芸術を読み直す	手の変幻	イ・エ	ア・イ		ア・イ・ウ・エ・オ	ア・イ・エ	ア・ウ・エ・オ・カ・キ	ア・オ	p.80-p.86	1	3	4
		[コラム]資料を集めて分析するには		イ						p.90-p.93			
		反アート入門	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・イ・ウ	ア・カ	ア・ウ	p.94-p.103	1	3	4
	読解のレッスン(二) 文章を読み比べる	科学者と芸術家	エ	ア・イ				ア・イ・ウ・オ・カ・キ	ア・エ	p.106-p.109		1	1
		自然と科学と、芸術のお話	エ	ア・イ				ア・イ・ウ・オ・カ・キ	ア・エ	p.110-p.114		2	2
	評論(五) 変化に対応する	「お母さん」の用法	ア・イ・エ	ア・イ		ア・ウ	ア・ウ・エ	ア・エ・カ	ア・ウ・オ	p.116-p.123	1	3	4
		技術とどうつき合うか	イ・エ	ア・イ		ア・イ	ア・エ	ア・カ	ア・オ	p.125-p.133	1	3	4
	評論(六) 多様性を見つめる	なぜ多様性が必要か	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.136-p.142	1	3	4
		働かないアリに意義がある	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・エ・カ	ア	p.144-p.151	1	3	4
評論(七) 未来を構想する	生体認証技術の発展と未来	イ・エ	ア・イ		ア・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.154-p.162	1	3	4	
	AI時代の社会と法	イ・エ	ア・イ		イ・ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・カ	ア・イ	p.164-p.171	1	3	4	
実用文(一) 情報を使いこなす	情報技術の活用に関するデータと文章を読み比べる		ア・イ		イ・エ	ア	イ・オ・キ	ア・エ	p.174-p.176	1	1	2	
	[コラム]グラフ・図表を読み取り、活用するには		イ						p.177-p.179				
	ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する	エ	ア		ウ・オ・カ	ア	イ・エ・オ	ア・エ	p.180-p.184	2	1	3	
評論(一) 世界を捉え返す	まなざしのデザイン	イ・エ	ア・イ		エ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.186-p.195	1	2	3	
	[読みを広げる]			ア					p.196				
	言語が見せる世界	ア・イ・エ	ア・イ		ア・イ・カ	ア・ウ	ア・ウ・カ	ア・ウ	p.197-p.207	1	3	4	
	[読みを広げる]※以下12箇所			ア					p.208				
評論(二) 人間中心主義を問う	人間という中心と、それよりも(軽い命)	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.210-p.217	1	2	3	
	マルチスピーシーズの示す未来	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・オ・カ・キ	ア・ウ・エ	p.219-p.229	1	3	4	
読解のレッスン(三) 推論を習得する	推論とは何か		ウ				ア・ウ・オ・カ	ア	p.234-p.239		1	1	
	帰納法のワナー一般化に対する疑問		ウ				ア・ウ・オ・カ	ア	p.240-p.246		2	2	
評論(三) 現代社会を読み解く	コミュニティ空間としての都市	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・イ・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.248-p.255	1	2	3	
	「第二の身体」としてのメディアと技術	イ・エ	ア・イ		ア・ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.257-p.269	1	3	4	
評論(四) 倫理を問い直す	いのちのかたち	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・カ	ア・ウ	p.272-p.280	1	3	4	
	ケアの倫理	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・カ	ア・ウ	p.282-p.291	1	3	4	
評論(五) 未知に向き合う	リスク社会とは何か	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・カ	ア・ウ	p.294-p.306	1	3	4	
	コスモポリタニズムの可能性	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.308-p.319	1	3	4	
評論(六) 社会の仕組みを考える	目に見える制度と見えない制度	イ・エ	ア・イ		ア	ア・ウ	ア・カ	ア・ウ・オ	p.322-p.334	1	3	4	
	「である」と「する」こと	イ・エ	ア・イ		ア・イ・ウ・エ・オ	ア・ウ・エ	ア・エ・カ	ア・ウ・オ	p.336-p.351	1	3	4	
評論(七) 文明を批評する	漫罵	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ウ・エ・カ	ア・ウ	p.354-p.359	1	3	4	
	現代日本の開化	イ・エ	ア・イ		ウ・エ	ア・ウ	ア・ウ・エ・オ・カ・キ	ア・ウ・エ	p.361-p.379	1	3	4	
実用文(二) 規則の意味を解釈する	法に関わる文章を読み比べる		ア・イ				イ・エ・オ	ア・エ	p.382-p.385		2	2	
	生徒会に提出する提案書の内容を検討する		ア・イ		ウ・エ・オ・カ	ア	イ・エ・オ	ア・エ	p.386-p.390	1	1	2	
表現編	レポートを書く	テーマを決めてレポートを書く	ウ・エ	ア・イ		ア・イ・ウ・エ・オ	ア・イ・エ			p.392-p.397	5		5
		書いたレポートを評価・分析して修正する	ウ・エ			イ・カ	イ・ウ			p.398-p.400	3		3
	小論文を書く	小論文の基本的な書き方を理解する	ウ・エ			イ・ウ・エ・オ	ア			p.402-p.403	2		2
		資料を読んで情報を整理する	ウ・エ	ア・イ		ア・イ・ウ・エ	ア・イ	ア	ア	p.404-p.409	3	1	4
		整理した情報をもとに、小論文を書く	ウ・エ			ウ・エ・オ	ア・イ			p.410-p.411	2		2
	書いた小論文を評価・分析して修正する	ウ・エ			イ・ウ・エ・オ・カ	イ・ウ			p.412-p.416	3		3	
										50	90	140	